

▲▽▲▽伊勢湾海上交通センター▲▽▲▽

伊良湖岬の最南端、伊良湖水道を見下ろす海上交通の要になる地点にあり、古来難所といわれた伊良湖水道の海上交通の安全を守っている。

2003 年 7 月に開設されたこの地は、古くから文人に愛された風光明媚の地でもある。

伊勢湾の奥部には名古屋港、四日市港があり、また東側奥部の三河湾には衣浦港や三河港がある

■管制業務

伊勢湾周辺海域を航行する船舶に対し、できる限りの情報提供(航行援助)を行うとともに管制業務を行っている。巨大船(長さ 200m 以上の船舶)などは事前に航路通航予定などについて通報しなければならぬが、この通報に基づき安全な船間間隔になるよう通航計画を作成し、必要に応じて指示あるいは勧告が行われる。原則は巨大船が伊良湖水道航路を航行する場合、航路内には 1 隻の巨大船しか入れず、2 隻の巨大船が続く場合は先行の巨大船が航路を出るまで次の巨大船を入れないことになっている。巨大船が通過に要する時間はおおよそ 10 分程度である。さらに巨大船の動静については海上交通センター上部壁面に設置されている電光表示板により周辺海域の船舶に周知されるようになっている。

航路巡視についても、海上交通センターに配置された職員が交代で 24 時間、航路における船舶の安全航行を確保し、また巡視船や巡視艇が随時航路を巡視するようになっている。

・伊良湖水道

名古屋港などに行くためには伊良湖水道を通らなければならないが、伊良湖水道は伊良湖岬と神島から張り出している暗礁で海が急に浅くなり、古来、交通の難所として知られていた。近年では次のような海難が発生している。

1972 年 7 月に伊勢湾内の神島近くでリベリア船籍の貨物船「グランド・フェア号」とオランダのタンカー「コラティア号」が衝突し、大量の油が流出した事故があった。また、1973 年 5 月には伊良湖水道北口で西ドイツの貨物船「メリ・アン号」が日本のタンカー「日聖丸」に追突・沈没し大量の油が流出した事故があった。

・伊良湖水道航路

このような伊良湖水道の状況から海上保安庁は 1972 年に海上交通安全法に従い、渥美半島伊良湖岬と神島間の海域に航路を設定した。

伊良湖水道航路は東側の朝日礁、西側のコズカミ礁に囲まれた幅 1200m、長さ 3000m の海域である。神島は三島由紀夫の小説「潮騒」で有名になったが、先の太平洋戦争の終戦まで海軍の監視所(神島監視哨)が置かれていた。

・「願いのかなう鍵」

伊良湖港付近の観光スポット。沖縄県の石垣島より投流したやしの実が渥美町内の海岸に流れ着き、長年のプロジェクトが成功したことを記念して設けられた。鍵をフェンスに掛ける形で願掛けを行える。

・「恋路ヶ浜」と「伊良湖岬灯台」

「恋人の聖地」に選定されている。岬に建つ灯台から太平洋に面して約 1 キロメートル続く美しい砂浜で、その中間あたりに鐘が設置され、記念写真の撮影場所として恋人たちに人気を博しており、撮影を試みる若いカップルを多数見掛ける。

「海員だより」